

第2回

今後の学校給食のあり方に関する

調査特別委員会会議録

1. 日 時： 令和7年12月4日（木） 午前10時16分～午前11時04分
2. 場 所： 全員協議会室
3. 出席者： 【委 員】河村委員長、岡部副委員長、松崎(正)・山上・井福・大塚・中村(真)
・松崎(百)・中村(慎)・河野委員
【欠席委員】なし
【委員外議員】なし
【執行部】なし
【傍聴者】平井・永利議員
市民3名
【事務局】一瀬議会事務局長、生座本議事課係長、増山議事課係長
4. 協議内容： 1. 今後のスケジュールについて
2. その他

5. 概 要：
(開会 午前10時16分)

○委員長（河村康之） 皆さん、こんにちは。では、ただいまから第2回今後の学校給食のあり方に関する調査特別委員会を開会をいたします。本日は、2名の議員と3名の市民が傍聴されています。

9月議会におきまして、本特別委員会が設置をされました。今回が初めての審議になりますので、実際的なスタートですから、初めに、皆さんにお尋ねをしたいことが二つございます。

まず、今回この特別委員会の設置について、一体誰のための特別委員会であるのかということと、給食に関する皆様の考え方をお尋ねさせていただきたいと思いますので、皆さん、順番にお答えいただければと思っております。こちらからいいですか。誰のためかということと、給食に関する考え方。

○委員（山上高昭） 誰のため、もちろん子どもたちのためですし、子どもたちがよりよい学校生活を送られるような給食の制度であってほしいと思っています。

○委員長（河村康之） 井福委員。

○委員（井福大昌） もちろん主たる該当者は子どもであります。もう子どもが第一、保護者と学校の先生はその次になるかと思えます。私も山上委員と同じで、第一の子どもたちのためになる給食であるための本委員会で進めていくべきだと思います。

○委員長（河村康之） 中村慎一郎委員。

○委員（中村慎一郎） 今、給食を食べる子どもたち、また将来給食を食べる未来の子どもたちのためのものが給食だと考えております。どういったものかといいますと、私は全員制ということを考えておりますが、ただ、それにとらわれずに、幅広く、深く掘り下げて考えていくべきだと思っております。

○委員長（河村康之） 大塚委員。

○委員（大塚みどり） 皆さんの言われるとおりに、子どもたちのため、主役は子どもです。今、

学校給食も含めて、食に関しては、いろんな多様性で、時代が変容してきていますので、そういったことも含めて、子どもたちに、大野城市として今後の学校給食の在り方ということで考えています。

○委員長（河村康之） 中村真一委員。

○委員（中村真一） 自分も皆様と同じような意見になるんですけれども、食べるのは子どもたちなんで、それを親の都合とか、保護者の方の都合でいろいろ決めるのはおかしいと思いますので、子どもたちのことを考えていくべきだと思いますので、子どもたちの意見を一番に考えたいと思っております。

○委員長（河村康之） 松崎百合子委員。

○委員（松崎百合子） 私も第一義的に子どもたちのためだと思います。今、子どもをめぐる環境は、いろんな格差があって、必ずしもきちんとしたお弁当なりを作ってもらえる環境にない子どもたちもいます。そういう中で、義務教育期にある子どもたちが、バランスが取れた栄養と、そして豊かな食事を取れるというのが給食でありますので。そして、また同時に、市民の願い、長年にわたって私も保護者の願いを聞いてきましたけれども、子どもたちに安心した給食を食べさせたいというのは、家族の、親の願いであり、それは自分たちが作るお弁当などよりも、バランスの取れた給食をしてもらいたいということがあって、子どもが第一で、そして、市民のための給食というふうに考えます。

○委員長（河村康之） 河野委員。

○委員（河野敏生） きつい思いをしている子どもをなくしたいと、そのためにやっていきたいと思っております。

○委員長（河村康之） 松崎正和委員。

○委員（松崎正和） 子どもが中心でしょうから。それに加えて教職員の負担軽減、あるいは給食制度の改革、改正を望む市民の方々、そういうことじゃないかと思っておりますけれども。

○委員長（河村康之） 最後に副委員長。

○委員（岡部かおり） 皆様が言っているように、「こどもまんなか社会」となっているため、大野城市の子どもたちのためにやっていきたいなと思います。そして、みんな、この多様性の時代ともなりますので、その時代に合わせて、みんなが楽しく食べれる給食を提案していきたいと思っております。

○委員長（河村康之） 皆さんにお聞きしたのは、私も当然子どものためだと思っておりますので、そこを第一に考えていかなければいけないかなと思っておりました。

特に、この給食特別委員会ですけれども、今までの給食が、二十何年間続けてきたこのランチ給食が変わるかもしれないと、新しい流れになるかもしれませんので、しっかりと限られた期間ですけれども、みんなで協議して、いろんな意見を出しながら、いいものをつくっていききたいと思っておりますので、皆さんの意見を初めに確認をさせていただきました。どうかよろしく願いいたします。

では、協議事項の（１）に移らせていただきます。

まず、今後のスケジュールについてですけれども、特にこれといってはありませんが、今後のスケジュール、今回特別委員会ができましたけれども、締切りといいましょうか、期間が再来年の令和9年の私たちの任期までとなっております。ですから、あと1年と3、4か月ぐらいになります。任期までですから、令和9年の4月末までが任期となっておりますから、最終的にはそこまでに委員会としての答申、また、議会としての結論を出していこうと思っておりますので、よろしく願いいたします。

あと1年4か月ほどありますけれども、その間で、どこかの場で、まだ決めておりませんが、中間報告も兼ねて、一度皆さん、ほかの議員にもご報告をさせていただこうと思っております。

今のところ決まっているスケジュールといいましょうか、こういう形になっておりますので、よろしく願いいたします。

調査項目の内容について、みんなと審議をしたいと思いますが、これから委員会が始まっていきますが、こういうことをしっかり調べていかなければいけないかなということを皆さんのほうからお聞かせいただければと思っていますので、どうぞ遠慮なく、何でも結構ですから、こういうことを調べるべきだとか、こういうことは優先すべきことだということがありましたら、挙手をお願いしたいと思っています。皆さんのほうから、ございますか。

○委員（岡部かおり） 以前から言われている残食の量とかを調べてみてはと思います。

○委員長（河村康之） 残食ですから、当然、今の小学校、中学校の給食の残食ということでありませぬ。当然そういうことも調べていかなければと思っています。

皆さんのほうから何かありますか、こういうところを調査していきたいということ。

○委員（松崎百合子） 大野城市の現状、小学校と中学校、市民から期待されてきたのが小学校のような全員制の給食をしてもらいたいということで、民意があったわけです。それで小学校の給食がどうなっているか、そして中学校の給食がどうなっているかということとともに、給食の在り方について、現状、中学校の場合は選択制という、昼食の選択制です、給食じゃない。それで、全員制の給食がされている中学校の視察はぜひとも必要と思います。

○委員長（河村康之） はい、分かりました。よろしいですか。皆さんのほうから何かありますか。

○委員（河野敏生） 全員制の給食をするときに、よく残食のこととか、あと時間、準備等にかかる時間のことが問題になるんですが、自分は、教員の経験の中で、例えば那珂川、当時町でしたけれども、給食の残食は、ほぼほぼないんですよ。理由は、おいしいからです。別の市ではいっぱい余っていました。おいしくなかったからです。なので、大野城市の子どもへの調査ではなくて、この周りの給食の残食とか、残食が多い理由だとか、僕の体感でしかないのですが、実際に調べていただいたりとか、準備にかかる時間というのも問題になったりしますが、これは那珂川はびっくりするようなくらい早いんですよ。子どもたちが給食準備を急げばお昼休みが長くなるということを知って、何かそんな指導もあっていましたので、何かそんな工夫とかやっているところとかを調べていただいたらなというふうには思います。

○委員長（河村康之） たしか那珂川は食缶でしたよね。食缶方式の給食です。

ほか何かこういうことを調べたほうがいいのかというのはありますか。

○委員（井福大昌） 地産地消の活かし方とかをぜひ調べてみたいです。

○委員長（河村康之） そうですね。

○委員（松崎百合子） 先ほど全員制の給食と言いましたけれども、全員制の給食でも幾つか方法がありますけれども、自校式で作られている中学校、そして、太宰府市が昨年からですか、始まったんですけれども、民間委託の食缶式でされている給食というのを見て、両方、全員制といっても、見たらいいと思います。

○委員長（河村康之） 中学校の全員制、自校式の給食というと、今の本市の小学校の全員制給食じゃなくて、中学校の全員制、自校式の給食ですか。

○委員（松崎百合子） そうですね。

○委員長（河村康之） 太宰府の中学校の給食であれば、センター方式の給食ですかね。そちらのほうということですかね。

○委員（松崎百合子） そうですね、自校式は有志のほうで一応視察したんですけれども、いろんなところがされていますけれども、宗像市の中学校の給食は、もともとセンター式だったのが、時間をかけて、5年ぐらいかけて、全校自校式にしてあって、各校、そして宗像市の各中学校、地産地消もすごく工夫されているんですね。自校式で栄養士もそれぞれいて、地産地消を工夫されているので、いいかなと思います。

- 委員長（河村康之） 分かりました。戻ってすみません。井福委員の地産地消の活かし方というのは、どういうこと、どういう食材を使っているかということですか。
- 委員（井福大昌） そこから調べていいと思います。
- 委員（大塚みどり） 今、井福委員に関連した食の安全、材料とか海外とか、今いろんな問題が出ていますので、食の安全も兼ねたいなと思っています。
- 委員長（河村康之） 食の安全ですね。皆さん、ありますか、ほか。
- 委員（中村慎一郎） 百合子委員の関連ですけれども、自校式、センター方式のほかにも親子方式もありますので、それについても調べていただきたいなというところと、あとは、度忘れしたのでまた後で言います。
- 委員長（河村康之） 分かりました。親子方式というのは、例えば小学校で中学校分の両方を作っているよということですかね。確認ですが、例えば、どこどこ小学校で、どこどこ中学校の分も作るという、そういうことですか。
- 委員（中村慎一郎） そうですね、はい。
- 委員長（河村康之） あと何かありますか。
- 委員（河野敏生） ここまで時間がかかっているというか、どうせなら日本一の給食が大野城市で提供していただけたらなというふうには思っていて、例えば、ランチルームとかで子どもたちがご飯を食べているというような話も聞くんですね。糸島とかでやっていると思いますが、何かそんなところも調べていただけたらなというふうに思います。
- 委員長（河村康之） 糸島のランチルーム、初めて聞きました。ほか。
- 委員（中村慎一郎） 給食で、先ほど河野委員が、おいしくない、残食量が多いところがあると言っていましたけれども、そういうところを改善している市町もあるんじゃないかと思うので、給食の運営や調理、あと味ですよ。そういった改善の仕組みというのがあるところも探してみたいなというふうに思います。
- 委員長（河村康之） 残食等の問題が改善された給食のところがあればということですね。分かりました。
- 給食いろいろ出てきましたけれども、あとはございませんか。
- 委員（松崎正和） 選択制給食から全員制給食に移行したその理由ですね。身近なところでは、太宰府がありましようし。なぜそれに替わったか。反対もない、反対というか、全員給食にしていたのを選択制にしたという例はおそらくないでしょう。なぜ全員制給食に移行したのか。その辺の理由をお聞きしたらどうでしょうか。
- 委員長（河村康之） ただ、そういうところを変えた自治体とか、そういうところですかね。
- 委員（松崎正和） 身近にありますから、近くに。
- 委員長（河村康之） 分かりました。あと何かありますか、皆さん。
- 委員（山上高昭） 実際の大野城の調理の現場、例えば、「はたなか」のところはどんなふうになっているかとかを見に行くというところですね。それから、これに至った経緯、歴史的な経緯も一応知っておく必要があると思うので、そういうことも研究したらどうでしょうか。
- 委員長（河村康之） 今、現状の給食、「はたなか」ですか、選択制給食、その現場と、これに至った経緯ということですね。これも調べたらどうかと。何分20年以上前のことなんで、どこまで分かりませんが、そういうこともですね。分かりました。
- 委員（大塚みどり） 現場にいた者として気になるのが、センター方式とかそういうのになったとき、アレルギーの対応が、非常に代替の食が、かわいそうなぐらいのメニューというか、内容になります。そういったところを何か工夫しているというか、考えているところというのを調べたいなとい

うのは、私はそこを入れていかないと、今後の学校給食の在り方なので、入れてもらえたらと思っています。

○委員長（河村康之） アレルギー対応の代替の方法、これはじゃあセンター給食であったり、自校式であったり、また選択制の「はたなか」みたいな、そういうのも含めてということですね。

あと何かありますか、皆さんのほうで。

○委員（松崎百合子） 今おっしゃったアレルギーの対策は、やはりとても重要ですので、大野城市もアレルギー対策、マニュアルもつくって進めているところなので、小学校の大野城市の給食の視察に行くときに、アレルギー対応がどのようにされているのかということ併せて調査したらいいかなと思います。

○委員長（河村康之） 分かりました。ほか何か皆さんございませんか。

おそらく、また話していると、またどんどん出てくるとは思いますけれども、今いっぱい、たくさんいろんな事例とか出てきましたけれども、全部やると大分時間もかかるとは思います。この中で幾つかやっていく。全部できればいいですけども、やっていく順番も考えながらと思いますけれども、一番手っ取り早いのは、本市でやっている小学校、中学校給食、これが先なのが一番早いかなと思います。当然、現地を見に行くのも有効でいいかなと思っています。

ただ、もう1個考えないといけないのが、給食の無償化が来年の4月から小学校が始まってきます。中学校も、今後どうなるか分かりませんが、無償化になったときに、大野城としては今現状ランチ給食を頼まなかった子には補助という形を取りますので、当然無償化になったとき、それがどうなるのかも、当然国とか県の方針もあると思いますから変わってくると思いますので、そういうことも含めて、無償化になったとき給食はどうなるんだろうかということも頭の中に入れておいていただければなど。これは仮の話ですから何とも言えませんが、そういうことも考えていかなければと思っています。

ちなみに、現在の大野城市の小学校、中学校の給食を見に行く前に、一度現場の教育総務課から、1回、状況をヒアリングなり何なりをしてから行くような形でいいのかなと思っています。ただ、いきなり何か給食のこと話してくれと言っても、なかなか出てこないと思いますから、今言われたアレルギーの対応がどうなっているとか、給食時間はどうなっているとか、そういうことも調べていきたいと思っています。

何か現場の、今、大野城市の小中学校の給食を調べる上で、これは聞いておきたいなということ、何か皆さんのほうで何かあれば、今、アレルギー出ました。給食時間の件も出ました。何かそのほか何か思い当たることとか、調査してほしいこととか、何かあればお聞かせいただけますか。

○委員（大塚みどり） 子どもによって食の細い子もいます。元気です、そういう人たちも。家庭の環境もあるんですけども、そういう理由だけじゃなくて、もともと細くて、そういう対応というか、そこから残食が出てくるというのを、そういうのを担当課としてどんなふうにされているか聞きたいなど。

○委員長（河村康之） 大野城の小学校が食缶方式ですから、残食が多分、分かると思うんですね。ただ「私、食べたくないから少なめ。」という子もおれば「いっぱい食べたいからお代わりする。」という子もいるので、残食はないけれども、今大塚委員が言われたように、中身の問題が、本当に栄養が整っているかどうか。当然、体調の部分もあると思いますから、そういうところも市のほうで把握できるのか、また、その対応についてどういうふうに考えているのか、それも含めて市のほうには問い合わせてもいいかなと思っています。

あと何かありますか。

○委員（岡部かおり） 付け加えですけども、小学校は「ちょっと減らしてください。」とか「大盛

りにしてください。」とかは言えるけれども、中学校は、ランチ給食は普通盛りと大盛りしか選べないので、女の子が「普通盛りでも、これ食べきれない。」といて「やっぱりお弁当作って。」というふうな感じで言われているから、ぜひ小盛りの検討とか、その残食を見てですね。蓋を閉じたらもう終わりだけれども、SDGsとかを勉強してきた子どもたちが今中学生に上がってきているから、「残してもいいよ。」と言ってあるけれども、結局残せないからお母さんに相談して、「食べれないから、やっぱりお弁当作って。」と言っているから、そういう現状とかもしっかり把握してあるのかなとか思いますので。ランチ給食で食べる男の子とか女の子の対比とか、その割合とかを調べてほしいというのが。大盛りはすごく大盛りなので、男の子が多いとは聞いたんですけども、改めて思います。

○委員長（河村康之） 分かりました。ランチ給食の現状ですね。男女比、残食の対応とか、そういうことも含めてですね。9月から無償化になってから何か伸びているとは聞きましたので、その理由も重ねて尋ねればいかなと思っています。

○委員（松崎百合子） あと、負担面ですね。6月議会で質問したんですけども、やはり小学校の1人の子どもに対して、中学校のランチ給食の場合は、2.5倍ぐらい予算が1人につきかかっているとところなんですね。そして、各校には栄養士が、小学校で10校に各配置されています。そのうち7人は県費、県の費用でしていると。でも、中学校の場合は、全部大野城市の負担で、各5校に1人か2人の、栄養士じゃなくて、注文とか、片づけとか、その仕事をする職員がいらっしゃるということで、かなり負担の差が、中学校の場合が高いというのがあるということが明らかになりましたけれども。予算とかも将来的に考えて、自校式、センター式、一応概算は以前にしてもらっているところがあるんですけども、どのくらいの費用がかかるのかということ进行调查すべきかなと思います。

○委員長（河村康之） 当然、費用ですから、小学校にどういう人員が配置されているのか、中学校であれば、こういう業務のために、給食のために、こういう仕事の人を何人配置しているとか、あると思います。今後ですけども、まだ仮定の話ですけども、もし全員給食になったときに、「PECOFFREE」とかの注文もなくなってくるかもしれませんから、そうすると予算的に1,000万円近く浮いてくることも考えられますので、それも含めて今の、現状の負担の部分について、教育のほうへお尋ねはしてみまじょうかね。分かりました。

あと、現状の小中学校の件で調査しておいたほうが、もしくは現場のほうに聞いておきたいこととか、何か思い当たる点がありましたら。よろしいですか。

○委員（山上高昭） 関係ないけれども、一つだけ。

○委員長（河村康之） どうぞ。

○委員（山上高昭） 小学校が、今、陶器の多分器を使っていると思うんですね。

○委員長（河村康之） 食器。

○委員（山上高昭） ええ、食器ですね。以前は、予算委員会とかでも、食器が割れましたみたいな質問とか質疑があったんですけども、陶器の器を使っているんで、調理員の負担がすごくあるという話を聞いたことがあるんですよ。給食、子どもには直接関わってこないところではあるんですが、現状を見に行くときには、ひとつ頭に入れておくぐらいで行ってもらったらいかなというところですよ。

○委員長（河村康之） 分かりました。小学校が陶器ですね。僕はアルミでしたけれども、昔は。

○委員（山上高昭） 重い。すごい重いついていうんですね。

○委員長（河村康之） 軽いやつね。ありがとうございました。調理員の負担とか、厨房とかのそういう問題ですね。私もこの間ある方から聞いて、疑問に思ったのが、小学校って給食は自校式で、給食調理場で作って、僕の時代、給食係が給食場に給食を取りに行行って部屋まで持って行く。今聞いたら、何かエレベーターで各階までクラスごとに分けてあるんですね。

〔「私のときもそうでした。」「私もそうでした。」の声あり。〕

○委員長（河村康之） 僕のときは、自分らで給食を取りに行っていました。給食場にみんな集まって、いろんな置く場所があって、そこから何年何組、何年何組って取って教室に持っていく。

○委員（岡部かおり） というのもありますけれども、一応教室の前まで持っていくというのは。

○委員長（河村康之） 各階ごとで行くでしょう。そうすると、仮に今後また全員給食、食缶方式となると、中学校に大規模な工事、エレベーター等の大規模な工事に行く行くはかかってくることになるからね。食数が多くなるから、うちが考えることじゃありませんけれども、そういうこともあるんだなというのは、ご報告までにとお思いまして。

あと、皆さん何かありませんか。現状の小中学校の給食で、調査するに当たって事前に担当部署に聞いておきたいことは。

○委員（岡部かおり） 大野城市の小学校は、エレベーターでして、クラスごとに片づけはあるんですけども。中学校は、クラスに給食委員会委員長がいらっしゃって、その子が指定の場所に取りに行行って、それを男の子が何人かで持って行って教室に運んでいるけれども、現状をもう一度ですね。各中学校に配置されている市の職員の方がチェックを最初にして、それから子どもたちが運ぶというふうには聞いているんですけども、本当にそれなのかというのと、先生たちが、以前はコロナのときは廊下で食べてたとかいうふうな感じだったから、今の先生たちもどんなふうに食べているのかとか、今給食の調査とかもしていただいているみたいなので、本当に先生たちが昼食時間に子どもたちを見ているかというのを、もう一度確認をお願いしたいなと思います。

○委員長（河村康之） 中学校、小学校もそうですけれども、配膳の流れといいましようか、そういうこと。逆に、それを言えば、中学校であれば、表から「はたなか」が納品に来てくるので、その配膳場所がどうなっているのか。そこから各クラスに運ぶためにどういうふうな流れになっているのか。また、それを子どもたちがどういうふうにとって教室まで運んでいるのか。そういうことも

〔「片づけも」の声あり〕

○委員長（河村康之） 流れ、片づけもですね。単純に食べるだけじゃなくて、通常の流れ、当然その中での時間も調べたほうがいいでしょうね。こんだけ時間がかかっているとか、そういうことも含めてですね。

○委員（岡部かおり） 学校によってもやり方が違うみたいというふうなことも聞いたので。

○委員長（河村康之） 先生の給食時間ですね。

あと何かございますか。遠慮なくどうぞ言ってもらっていいですよ。

○委員（大塚みどり） いつも年度というか、この時期からアンケートを多分実施していると思うんですよ。親と生徒とですね。その分析というのを早めに聞きたいなというふうに思っています。

○委員長（河村康之） アンケートが分からないです。アンケートって、以前中学校で取ったアンケートじゃなくて、通常に取っているんですよ、そういうのを。

○委員（大塚みどり） いや、いつもこの11月とか12月に、今大体LINEになって、そこで答えるようになっているのを聞いていましたので、多分1月にはもう分析されてくると思うので、その辺りも資料としていただけたらと思って、早めにですね。

○委員長（河村康之） 分かりました。アンケートの調査の内容とか結果とかも含めてということですね。分かりました。

あと、思ったのが、中学校、ランチ給食になって、食べる食べない人が出てきて、学期で1回締めるんですよ。12月23日か24日で今学期の給食は終わりますから、その締めた後、食べない人に返金とか、そういう流れが発生してきて、教育総務課に聞いたら、早くても1月末だと、振込が。おそらく2月中には振込ができるので、このときの状況とか問題とかもいずれは聞いてみたいなと思っています。

ます。

○委員（河野敏生） アンケートというの、今まで、去年、おととしとかアンケートの結果とかを見せていただいたけれども、設問がとても恣意的というか、誘導的だなというような設問もあったと自分は思ったんですね。もし新たにアンケートをするということがあれば、設問からみんなで考えてされたほうがいいかなとも思います。

○委員長（河村康之） なるほどね。

○委員（大塚みどり） それをすると期間的に非常に難しいので、意見を、分析を聞いた内容から新しい視点ということを経験として質問するのもいいかなと思うのと、比べようがないんですよ、前年度と、この問題を変えられると。だから、どんなふうに変移しているかというのは、やはり今までどおりの見ないと比べられないなと思いますけれども、私はそう思います。

○委員長（河村康之） 河野委員が言ったのは、以前、中学校で取った、令和2年に取ったアンケートの件ですか、給食に対する調査何とか。大塚委員が言っているのは、定期的にやっている、年に1回の分のアンケートですか。

○委員（河野敏生） 大野城の教育とか、そんな感じで、全戸に配られたやつとかにも書いてあったりとか、あと一応その調査のほかのも見せていただいたりとかする中で「はてな」って思うような設問がありました。

○委員（松崎正和） それあるんですよ。今、手元にないから、具体的にこうこうと説明できないけれども、実際あるの、それは。

○委員長（河村康之） それは毎年やっているという、大塚委員が……。

○委員（松崎正和） そう、例年やってるやつ。数字が、いわゆる選択制に有利な回答を感じられるのがあるんですよ。

○委員長（河村康之） それは毎年やっている分ですか。

○委員（松崎正和） そう。それを河野委員は言っているんじゃないですか。

○委員長（河村康之） そのアンケートは、状況を私も把握してなかった。何年か前に取ったアンケートしかぴんどこなかったものですから。分かりました。アンケート、取りあえず分析をして、今後新しくこういうふうな形でとかというのを考えるのであれば、それはそれでまた検討していきたいと思っています。

給食関係であと何かございますか。

○委員（井福大昌） すごい細かい小さなことなんですけれども。

○委員長（河村康之） はい、全然いいです。言ってください。

○委員（井福大昌） 給食の時間というのは、単純な喫食や栄養学的なものだけではなくて、コミュニケーションの時間であり、社会性を培う時間じゃないかなと思っています。私の子どもの頃はそうでした。特に、スクール形式である机を移動させて班をつくって、島をつくって、その中でわいわい言いながら、コロナ中はどうしても黙食だったんでしょうけれども、今現状どういう食べ方をしているのか。私なんか好きな子と一緒に班になったら、どきどきしてたりしていたものですから、何かそういう社会性を培う場、コミュニケーションの場という意味での給食が今どうなっているのかというのを調べてみたいなと思いました。

○委員長（河村康之） 給食時間がどういうふうなコミュニケーションを取るような形で行っているかという部分ですね。分かりました。どうぞ皆さん。

○委員（中村真一） 自分も細かいところなんですけれども。

○委員長（河村康之） どうぞ、細かいこと言ってください。

○委員（中村真一） 牛乳の扱い方というか、牛乳を飲まない子とかいろいろあると思うんですけれ

ども、牛乳は必ず頼まないといけないものなのかどうかですね。

○委員長（河村康之） これ、給食法か何かじゃないかなと思うんですよ。栄養か何かで。

○委員（中村真一） 牛乳の扱い方ですね。

○委員長（河村康之） 飲まなくていいの。

○委員（岡部かおり） 飲まなくていい。

○委員長（河村康之） ああ、そうなの。飲めって言われたよ。

○委員（岡部かおり） アレルギーとかが。

○委員長（河村康之） 乳って入っているから。分かりました。それも聞いて。扱い方、どんどん減っているとか増えているとか、そういうこともあるでしょうね。飲まなくていいのであれば。

○委員（中村真一） 牛乳が余っているというようなことを聞いたことがあるんで。残食に関わってくるようなものなのかなと思ったんで、そういった状況を聞きたいというのもあって。

○委員長（河村康之） あとは何かございますか。

○委員（中村慎一郎） 重複するかもしれないですけども、給食を食べる時間、給食の時間と、あとは時間割の関係を、ほかの他地域のも知りたいなと思いますし、市内でももしかしたら違うかもしれないので、そういったところも気になるなと思っています。

○委員長（河村康之） 時間割の関係というのは、4時間目の後、給食じゃなくて、3時間目の後、給食ですよとかじゃなくて。

○委員（中村慎一郎） 4時間目の後に多分給食になると思いますけれども、給食の時間が何分なのかとか、その時間の影響によって、また休み時間であったりとか、終業の時間が変わるのかとか。

○委員長（河村康之） 全体の学校の中での給食の時間という取り方ですね。分かりました。これは、取りあえず現状は市のほうでは確認はできると思うからですね。それを今後ほかのところを調査するかは別として。

あと皆さんのほうで何か給食について。

○委員（岡部かおり） 思い出したんですけども、中学校のことですけども、部活前にも1個パンとか食べれるというふうな学校もあるし、ほかのところは一切食べれないというところもあったんですよ。間食というか、今の子ってすごく消化も早いみたいなので、ランチ給食とパンを頼む子がいて、ランチ給食は時間がなくて、早く返さないといけないからといって、「もう早く早く。」ってせかされるみたいで、後でゆっくり食べようということもあるんですよ、パンを頼んで。だから、その時間以外でも、部活している子は食べれるのかなというふうな感じで。よく幼稚園とかでも保育園とかでも、「預かりさん」になる前はおやつとかを食べるとかそういうのもあるので、そういうふうな配慮とかはどんなふうになっているのかなと思います。

○委員長（河村康之） 例えば、学校は、給食以外ほかの物は食べちゃ駄目よということだから食べれないとか、もしくは部活前は食べていいよとか、そういう決まりがあるかどうかということですかね。

○委員（岡部かおり） ほかの中学校は、ある中学校は食べれるって、「だからパンも頼んでるもんね。」と言って「パンもランチも頼んでいるよ。」と、「うちのところは食べたらいかんって怒られてるよ。」とか言って。部活動の先生によっても「食べていいよ。」と、どんどん太らせないといけないから、食べていいよという学校もあるから、これから部活動移行で全然先生たちが変わってくるから、どうなのかなというふうな感じではありますね。

○委員長（河村康之） 分かりました。現状ですね。

○委員（岡部かおり） ぜひ食べてもらったほうがいいのかと思ってね。パンとかも利用して。

○委員長（河村康之） 分かりました。あとどうですか、現状の小中学校で。

○委員（松崎正和） 1点、いわゆる欠食の実態。「欠食ありません。」なんて言う人もいますけれども、あつてことは間違いないですよ。教職員が走り回って、食事が無いものに余つとるのがあるとか、そういう大変な苦勞もあつているようですから、その辺の実態をきちんと、せつかくこういう委員会ができたんなら、欠食の実態を、きちんとしたものを調査する必要もあるんじゃないかなと思います。

○委員長（河村康之） 以前、欠食の実態、たしか1週間ほどかけて中学校でやったと思いますけれども、それとはまた別での結果についてじゃなくて、新たにもう1回したらどうかということですか。

○委員（松崎正和） だから、当時やった調査が、いわゆる教職員が走り回って、あつちから持ってきて、こつちから持ってきたと、そういうことで食べたんですよと、そういうことがあつている。その辺も含めて、食べてないのに食べたふりをするとか、いろいろあるようですよ、実態は。欠食があつていることは間違いない。

○委員長（河村康之） 教師が気がつかないでいるのか、そういうことも誘導してあるよということも含めて調べてみたらどうかということですかね。

何か、あとございますか。

○委員（井福大昌） アレルギー問題のすごい延長上なんですけれども、ハラール食とかどうなつているのかなと思つて。

○委員長（河村康之） ハラール食、何ですか。

〔「イスラム教とか食べられないでしょ。」の声あり。〕

○委員長（河村康之） ああ、そういうことか。宗教上のあれで。はい、分かりました。

あと何かありますか、皆さんのほうで。

ある程度、大分出ましたので、アレルギー問題もあれば、食事の時間、男女比、配膳の時間とか問題とか、タイムスケジュール、アンケートどうでしょうかとか、いろいろ出ていますので、これについて所管のほうに、こういう問題は教えてくれということと、現状について分かっていることも説明していただいて、その質疑の中でまた再度いろんな問題が出てくると思いますから、現状の大野城市の小学校、中学校の給食について調べていきたいと思つております。

早急に行つて、小学校、中学校の給食を食べに行つて、現場を見に行きたいと。できたら早く行つて、来年の頭、早うちに現場のほうに食べに行きたいと思つています。どうしても学校があるから、なかなか行ける時間とか、一気にこの10人が一つの学校に行くものなのか、幾つか分散したほうがいいのか、クラスごとで分けたほうがいいのか、そういうことも、実際問題行くと決まりましたら、そこまでやつていきたいと思つていますので、お願いいたします。

今後のやり方としては、小中学校の給食の現状をまず調べていくと、そのために担当部署に説明をしていただくと。今、幾つか問題を聞きましたので、それも投げておきますので。まずその辺から調査を行つていきたいと思つています。

そのほか、いろんな、先ほどありましたように、他の給食センターを見に行くとか、他の自治体の給食はどうかとか、ランチ給食の「はたなか」をどうするか。これは次のときにまた詳しくまとめた分で皆さんで協議して、どこまでやつていくかを話し合つていきたいと思つています。

以上で、今回の分についての調査内容については以上としますけれども、皆さんいいですか。

〔「なし」の声あり〕

○委員長（河村康之） 次、2のその他になりますけれども、皆さんのほうから何かございますか。

〔「なし」の声あり〕

○委員長（河村康之） 事務局、何かありますか。

特にないようですので、今回は終わりますけれども、次回開催なんですけれども、今12月議会中で

すから、今言った小中学校の現状はどうかということを担当部署のほうに投げて、できたら12月議会中にヒアリングとかできればと思っています。

その後、ヒアリングが終わってから当然質疑も終わって、具体的に次は給食をどうしましょうか、もしくは次の問題はなにしましょうかという過程で順番に落としていきたいと思っていますので、よろしいですか。

○委員（松崎正和） 議会中にとっても、担当部署は対応できるんですか。

○委員長（河村康之） そうなんですよ。

○委員（松崎正和） 突然委員会をつくって、担当部署もこの件について進めていくわけですよ。いろんな仕事があるわけです。それを議会が説明してくれてと、しかも議会中にと、そんな無理なこと言っちゃいかんでしょう。

○委員長（河村康之） いや、当然それは向こうの都合も当然聞きますので。

○委員（松崎正和） だから、今議会中やりますじゃなくて。

○委員長（河村康之） 分かりました。できれば、できるのであれば議会中に、みんなも来ておりますから。できなければ、当然、質問内容を投げおきますから、答えていただける時間、12月なのか1月なのか分かりませんが、取りあえず教育部とも相談をさせていただこうというふうに思っています。

○委員（大塚みどり） 今の松崎委員のことを含めて、いきなり12月中に所管に聞くのは、厳しいと思うので。今日、今出た内容をどの辺りに持っていか、スケジュールとか、先ほども、短期間になりますので何かそういう質問の整理をしたのをいただいて、それを今度私たちが、この時期にここを見ようとか、何かそういうのにしないと、担当課が厳しいかなと思いますね。

○委員長（河村康之） 今いただいた意見をペーパーか何かでまとめて、当然まとめるつもりですけども、所管のほうに投げて、回答いただくのがいつか分かりませんが、今年中か、来年頭か、2月か分かりません。それをいただいてからもう1回、学校についての、小中学校についての聞き取りとかというのをやるということで。今議会中にもう少し今後の給食、小中学校のことについては、そういう段階ですとしても、今後の調査内容について。

○委員（山上高昭） 今日出てきていますので、これを正副委員長で整理していただいて。

その整理をまずはいただくということでいかがでしょうか。特にその日って決めずに、まずは、申し訳ないですけども、正副委員長にそこをまず一任させていただければと思います。

○委員長（河村康之） 分かりました。よろしいですか、それで、皆さん。そういう形で。

正副委員長で、取りあえず小中学校の給食以外の分、今後のスケジュール、内容についてまとめさせていただいて、また次回、日程は未定ですけども、ひょっとしたら12月議会でもう1回、委員会で集まってくれませんか、そういう流れでいこうと思いますが、よろしいですか。

○委員（松崎正和） 事務局に迷惑をかけないように。

○委員長（河村康之） 分かっている。まとめて、まとめて。

○委員（松崎正和） 議会中に事務局に迷惑が掛からないように。それも余裕をもってやってください。

○委員長（河村康之） 重々分かっております。当然、事務局にも迷惑にならない、甘えないように、しっかりとできる範囲で、丁寧にお話をさせていただいて。それで、できることは、今松崎正和委員からありましたように、事務局に負担のないようにということですから、当然正副もしっかり汗をかきます。どうぞ皆さんのほうも汗をかいていただこうと思いますから、この部分に関しては代表何名かでやってくださいということも投げるとしますので、その辺のご協力をよろしいでしょうか。松崎委員、よろしいですか。事務局には迷惑をかけないようにしますので、よろしいですか。

○委員（松崎正和） はい、頑張って。

○委員長（河村康之） 同じ思いで、今後の給食を考えていこうということですから、同じようにみんなで、議員で汗かきながらいきたいと思いますから、協力のほどよろしくお願いします。

次回の開催は、追ってまたご連絡ということですから、よろしくお願いいたします。

○委員（岡部かおり） 委員長とお話ししてたんですけれども、今後、次回の開催予定とか言っていますけれども、大体どれぐらいのスパンで、皆さん、それを……。

○委員（山上高昭） それをまとめましょうって。

○委員（岡部かおり） そしたら、私たち正副で話したとき、月に1回行いたいよねという話はしてたんですよ。

○委員（松崎正和） 月に1回必要かどうか分からんやろ。

○委員（岡部かおり） まとめて。

○委員（山上高昭） まとめてからでいいんじゃないですか。まずまとめてください。

○委員（岡部かおり） はい、分かりました。

○委員長（河村康之） まとめさせていただいて、皆さんのほうにご報告をさせていただきます。

とにかく締切りが決まっていますから、それまでに、今だけでいただいたいろんな要望がありましたから、調査内容がありますので、それをやっていかなければいけませんから、できるだけ私たちは、正副も早く終わっていきたくて、できることはどんどんやっていきたいという思いがありますので、皆さんのご協力もどうかよろしくお願いいたします。よろしいですか。皆さんとともに汗をかいていきたいと思いますので、誰一人欠けることなく汗をかいていきたいと、よろしくお願いいたします。

以上で、今日の調査特別委員会を終了させていただきます。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

（閉会 午前11時04分）